桜―まほろばへの回帰

昭島市　佐藤光子（東城町二丁目出身）

故郷へ帰ってこいと桜かな

四月十一日、十二日、Jネットの企画に誘われ、今年も高田の花見に帰省する事が出来た。

桜の見頃に恵まれ、その花の下に莫産を敷き、故郷の酒やワイン、様々な心のこもった手料理に至福の時間を心ゆくまで過ごした。

我が母校どれも桜に囲まれて

雅で、しかも艶やかな高田城址の桜。特に、多感な中学校時代をこの城址の中の校舎で過ごした。部活帰りなどの薄墨色の夜桜は、殊のほか心の奥に言いがたい嬉しさと、仄かな哀しささえも混ざり合わせ、不思議な感動を与えてくれていた。

ところが、今も同じだった。

この桜我が原風景の真ン中に

時間を溯るようにして、こうして生れ故郷へ事あるごとに帰り続けるのは、多分そうした自分の原風景に出会いたいからなのだろう。

川音やつくしかたくりふきのとう

宿泊の「くわどり湯ったり村」には、個人的にも、もう三回泊まっている。

部には稀な、おしゃれで美味しい料理、豊富な湯、それに行き届いた職員のもてなしが気に入っているからだ。

翌朝、枕の下を流れる雪解けの川音で目が覚めた。去年は寝坊し、朝の散歩に置き去りにされて悔やんだので、直ぐに起き出す。

お蔭で、市の職員の方の案内で残雪を踏み、カタクリの群生を観賞。土筆や蕗の薹を摘んで、村里の早春を満喫することが出来た。

黒々と幹の太さや雨の花

朝食後、再び高田へ。雨になる。埋蔵文化財センターを見学の後、岩の原ワインで昼飯。

駅へ向かう車から、雨に打たれる桜を見た。

大雪にも耐えた古木に咲く桜。なかなかの風情だ。それを眼裏に、自分への土産とした。